

背中を見せるような絵本をつくりたい

青木 優和

「親の背中を見て子どもは育つ」と言われます。親が不器用にドタバタしながら一生懸命に生きている。そこには、長く生きてきた「生きるプロ」としての、大人たちの真実がある。

子どもたちは良くも悪くもそこから多くを学んで、自分の生き様に取り込んでゆけるということでしょう。必ずしも、あえて上意下達的に子どもに何かを伝えようとしなくても良いのかもしれない。

私は、絵本を作るときに、そのことを考えるのです。子どものために絵本を作ることを目指そうとすると、絵を単純化したり、可愛らしくしたり、話をわかりやすくしたりといった、子どもたちにとって受け入れやすそうだと思われる表現を目指したくなります。でも、私たちは大人になる過程で、知らない間に常識的な知識とか感性とかを刷り込まれて、子どもがどう感じるかを思い出すことはほとんど不可能になっています。どんなさじ加減でつくったものが子どもたちのテイストに合うかは、本当に計り難いのです。

それなら、ひとつの策として、さじ加減を放棄してしまえば良いと思うのです。研究者が真剣につくった、一切の手抜きなしの情報を盛り込んだ、研究者から見ても内容について納得してもらえそうな、そんな絵本があったなら、子どもたちにはそれぞれの感性で、そんな絵本から「何か」を受け取ってもらえそうな気がするのです。その「何か」が何なのかは、私たちには既にわからないのですが。

ただ、研究者が自分たちの研究について一生懸命に語ろうとすると、そこには自分たちの研究についての喜びや、感動や、輝きというか

光みたいなものがある気がします。それらは親の背中みたいなので、何かしら、こそっと、じわじわと、影響を与えようと思うのです。

私を育ててくれたとも言える多くの絵本をつくってくださった加古里子氏は、著書『絵本への道』(福音館書店/1999)の中で、科学研究者などの専門家が科学絵本の制作にしばしば監修者として関わっていることに言及され、「しかしこうした専門家が、単に監修者として科学絵本にたずさわられるだけでなく、私はできるなら直接子どもたちのために科学絵本をかいていたきたいと願っている者のひとりです」(94ページ)と書かれています。

その理由としては、研究者の究めてきた科学的知見の「その内容の裏や底にひそんでいる人の心をとらえるものは、そのことを直接体得された学者からジカに子どもたちに与えていただくのが最もよいと考えるからです」(95ページ)と述べておられます。

この「人の心をとらえる」何かを子どもたちに届けてみようというのが、私たちの目論見です。

文章の作者も画家も研究者で、監修も研究者。その研究者の暴走を食い止めるのが編集者。といった組み合わせで作っているのが、仮説社の「海のナンジャコリヤーズ」という絵本シリーズです。

本は世に出れば独り歩きを始めます。子どもやそして大人たちにどんなふうに受け入れられるのかは未知数で、つくっている私たちにとっては怖くもあり楽しみでもあるところなんです。でも、とにかく、私たち自身が楽しみながら、できる限り正確に、誠実に、絵本づくりをしてゆきたいと考えています。

本シリーズは海の「藻場」を舞台に、現在『[わ](#)[れ](#)[から](#)』『[わかめ](#)』『[うに](#)』の三作を刊行中。

第四弾『てんぐさ』の今年中の刊行を目標に、目下制作に励んでいます。ぜひ、お楽しみに！

(あおき まさかず：東北大学農学部)

広い知見から、「君だけの知見」の時代へ

小川 凜一

Chat GPT、公開当時から毎月お金を払って使っていて、ここ数年で一気に「賢く」なった。もはや、私にとっては仕事でもプライベートでも欠かせないツールとなったと言っている。ふと気になったこと、思い出せないあれこれについて、文句も言わない全知全能の相談相手として、いつもそばで支えてくれている。

さて、私が書籍に関わった最初の本、『こども六法』（弘文堂/2019）という児童書がある。

これは、友人の山崎聡一郎氏の考えが原案となり、私が書籍の企画と構成、妻がデザインとイラスト原画を手がけ、皆で作り上げた本で、80万部のベストセラーとなった。この本を端的に言えば、「法律の条文を子ども向けに噛み砕いた本」である。

難解な法律の条文を、法律の専門家とともに子ども向けに噛み砕いた山崎氏の労力は、大変なものであっただろう。

先日、ふと思い立って Chat GPT に法律の原文を入れ、子ども向けに書き直すように指示をしてみて、驚いた。あまりに完成度が高いのだ。わかりやすく、それでいて法律に照らし合わせても隙がない。当時 AI がもっと隆盛であれば楽にできたな・・・と考えてはたと思った。

「書籍はもはや不要なのだろうか」

何も本を買わなくてもいい。子どもが条文の内容を知りたいなら、それを AI に質問すればいいのだ。年齢に合わせた適切な言葉で、何なら時にジョークだって交えながら楽しく教えてくれるはずだ。全知全能の存在の前で、我々が書

籍にまとめる意味は無くなってしまったのだろうか。もちろん、ある意味ではそうだろう。時代は変わったのだ。知りたい情報がある時、本棚を歩き回る時代から、Google で検索する時代になり、そして今、AI に尋ねる時代になった。

だが、全知全能の存在に『こども六法』は作れない。

『こども六法』はいじめの被害体験から生まれた。山崎氏は、小学生の時、骨折まで至るような暴力を伴ういじめを受けた。

そして中学時代に法律の条文に出会い、自分の受けていたことが「犯罪」であることを知ったのだ。そして、子どもたちが法律を知れば、身を守る術を自分で持つことができる。そう信じて本の構想に至った。

私も中学時代に暴力を伴ういじめを受けていた。同じ体験を子どもたちにしてほしいという想いで支援を集め、『こども六法』は発売へと至った。

『こども六法』は強烈な体験から生まれた。いじめという犯罪をなくすことへの願いと想いが強く強く刻まれている。

同じように、全ての書籍には誰かの意思が含まれていると私は思う。

「この本を読んで、これを知ってほしい、こう感じてほしい、これを考えてほしい」

誰かの意思があるからこそ、あらゆる知見の海から、情報は想いによって選び取られ、そして本という形になる。AI は全知全能であるがゆえに、どこまでも平均的だ。AI には無限の知識は詰まっていますが、そこから選ぶだけの意



思も体験も持ち合わせていない。子どもたちはまだこれから「何を知りたいのかを知る」ところから始めなくてはならない。そこには誰かの願いや想いが必ず必要になる。だから本は必要なのだ。

この話には、もう一つ大事な側面がある。それは、これからの時代において「自分だけの知見」の重要度・価値がより増していくということだ。単なる「物知り」勝負では、人はAIに絶対に勝てないし、今後も勝つことはないだろう。つまり、AIで代用できてしまうのだ。

これから重要な知識。それは自分だけの特別な体験、強烈な想い、自分にしか伝えられない知識だ。

自著『キラリモンスター〜ちょっと変わった偉人伝〜』（大和書房/2021）は、そうした個人の体験をまとめた本だ。

登場するのはHIKAKIN、渡辺直美、富永愛などの著名人から、起業家、発明家、VR世界の第一人者まで幅広い。脈絡なく見えるが、全員に共通するのが「自分だけの強烈な体験を武器に戦う人たち」だ。彼らの苦しみ抜いた過去や、逆境の中で掴んだこと、そして自分の目で見聞きしてきた知識はどれも「自分だけの知見」だ。だからこそ価値がある、だからこそ社会で戦えている。

同時に私はこの本で、子どもたちを肯定してあげたかった。「ボランティアに行きました」「海で自由研究をしました」。もちろんそれらも大事な体験だ。でもそれだけじゃない。「家族の仲が悪かった」「友達ができなかった」そして「いじめられていた」。それでさえ、君だけの体験、君だけの武器なんだ。

『こども六法』は大変なヒットとなったが、私は一度も「いじめられてよかった」と思ったことはない。それでも私には武器が残った。私はそれを握ることにしたのだ。

3年ほど前から、全国の小学校で授業が始まっ

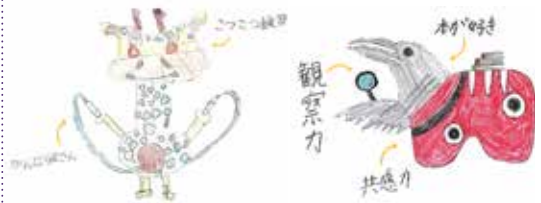
た。「自分だけのキラリモンスターを作る」授業だ。キラリモンスターというのは、自分の内面やこれまでの体験をモンスターという形にして描く授業で、今自分が何を持っているのか、そして何を伸ばし、どう変わっていきたいかを考える授業。鏡では自分の顔しか見えない。

しかし、キラリモンスターという「内面の鏡」



を子どもたちは前にすることで、自身の持つ可能性に気づくことをねらいとしている。学期の総合の時間を丸ごと使い、

丹念に内面の自分を形にしていく。子どもたちの発表は、いつもユニークで、そしてしっかりと自分が見えている。授業後に子どもたちから多く寄せられる感想は「自分の秘められていた力に気づいた」という話だ。この話を聞けるのが一番嬉しい。



テストの点数に現れなくても、普段自慢できることじゃなくても、君が見たこと、君だけが掴んだこと、それこそ価値があるのだと、子どもが知ってくれば嬉しい。

「授業プロジェクト わたしのキラリモンスター」

無料で教材プリントをダウンロードしてご利用いただけます。総合的な学習の時間や夏休みの自由研究などでぜひご活用ください。

出張授業のご依頼もお気軽に！



おがわりんいち（LUCK株式会社）

担い手も楽しい学校図書館

小熊 真奈美

昨年10月、学校図書館の廊下に現れたのは、ふわふわの雲のような白いくじら——そう、「くじらぐも」です。

光村図書出版の1年国語の教科書でおなじみの雲のくじらを、段ボールと手芸用の綿で作ってみました。そして、画用紙で人型を作り、爪楊枝を貼ったものを脇に準備して、こう書きました。

「顔や服を自由にかいてください。あなたの分身を、くじらぐもにのせましょう！」

すると、全校児童を上回る人数が雲のくじらに乗ってくれました。教科書に長年掲載されてきたので、上級生も先生たちもこのお話を知っていて、面白がって参加してくれたようです。小学1年の担任の先生は、国語の授業中に全員を連れてきてくれました。たくさんの紙の人間たちを乗せたくじらは、空の上を悠々と飛んでいるようでした。



ご挨拶が遅れました。私は福島県の海沿いにある小規模校で小学校教諭と司書教諭をしています。学校図書館をみんなが集まる広場みたいな場所にしようといういろいろな企画を考えており、図書館の廊下にこのような参加型の掲示物を作るのもその一つです。

今年1月には赤い鳥居の「読書神社」を作って、絵馬に願い事を書いて下げられるようにしました。「漢字検定合格」「〇キロやせたい」など、子どもも大人も願い事をたくさん書いてく

れました。反響が大きいと企画者としても嬉しくなり、次はどうしようかと楽しみになります。



本校は小中学校が一つの建物に同居しており、それぞれのスペースの中間に学校図書館があります。学校司書は、小学1年生から中学3年生までの幅広い年代のニーズに応え、子どもと本を結ぶために様々な取り組みをしています。中でも昨年度から始めた「図書館ラジオ」がとても好評なので、詳しくご紹介いたします。

給食の時間に、校内放送で学校司書の軽快なトークが始まります。

「皆さん、こんにちは、学校司書のMが図書館ラジオをお届けします。

図書館の掲示板に富士山が登場しました。2月23日は天皇誕生日ですが、富士山の日でもあります。富士山は1707年の噴火を最後に、300年以上噴火していません。この後、富士山は噴火することがあるのでしょうか？ 知りたくなった人は、かこさとしさんが書いた『富士山だいばくはつ』という本を読んでみてください。富士山ができるまでや……」

こんなふうに、季節や記念日に関わる本、お勧めの本や新着図書、図書委員が行うイベント、町図書館の行事などについて、学校司書が全校の小中学生に向けて話します。前半に小学校低

学年が興味を持ちそうな本について話し、後半には小学校高学年から中学生にお勧めしたい本について話すなど、幅広い選書をしています。月1回の放送日を、子どもたちも私も楽しみにしています。

ラジオの影響に驚かされたのは、一度も借りられなかった本を取り上げた回でした。本校図書館が開館して約7年ですが、その間に一度も貸し出しされなかった本が結構あります。おもしろい本が読まれないのは残念ですし、ぜひ子どもたちに知ってほしいと考え、まず図書便りで紹介することにしました。次に、廊下の本棚に「貸し出し回数0の本に愛をください」という目を引くPOPを添えて本を掲示しました。しかし、残念ながら本はほとんど借りられていきません。

ところが、学校司書が「図書館ラジオ」で話をした直後の昼休みに、早速動きがあったのです。数名の子が図書館にやってきて、口々に「さっきの放送でMさんが言っていた本はどこですか?」「ぼく、借ります」などと言います。ある子は本を手にとって

「私がこの本を1番に借りた人になるね!」
と、どこか得意そうに本を借りていきました。

「図書館ラジオ」という取り組みは、他校で実践しているのを研修会で学んだ学校司書が、見よう見まねで始めたものです。回を重ねるごとに話しぶりも板につき、とても生き生きとした放送になっています。時には教職員から放送した本について話しかけられることもあるそうで、よいコミュニケーションの題材になっているとか。学校司書が生の声で語りかけたからこそ、多くの子に本のことが届いたのだなあと思われた出来事でした。

ところで、「貸し出し回数0の本に愛をください」というPOPは、中学校の支援員が作成してくれた力作です。学校司書が描いたラフを元に、ロゴのレタリングやイラストを工夫してアイデアを盛り込み、楽しそうに作ってくれました。

子どもと本を結ぶ活動にさまざまな教職員が関わり、それぞれが活動に楽しみを見出しているのが本校のよいところではないかと思います。

「歌い手の愉快なポルカ」(ヨハン・シュトラウス2世)という曲がありますが、「担い手も楽しい学校図書館」というのはいかがでしょう?
(おぐま まなみ:福島県富岡町立富岡小学校)

「10代がえらぶ海外文学大賞」、はじまります。

魅力的な作品あふれる海外文学を、10代にもっと読んでもらいたい!

そんな思いであらたな文学大賞がはじまります。第1次選考は年齢制限なく、誰でも参加できるけれど、最終投票の権利は10代のみ。10代が自分たち自身で選ぶ自分たちの文学大賞です。

対象作品は2024年に日本で刊行された、10代が主人公の海外(翻訳)文学。10代が主人公なら物語に限らず、グラフィックノベルや絵本、古典新訳も含まれます。ただし、選考委員が翻訳・監修した本は対象外です。選考委員は6名。翻訳家の越前敏弥さん、金原瑞人さん、三辺律子さん、奈倉有里さん、書店員の河出真美さん、司書教諭の私。他にも運営を担う実行委員として学校図書館司書や書店員、編集者が裏方として支えています。

5月にある第1次投票では「これぞ!」と思う海外文学にぜひ1票を投じてください。継続して運営していくためにクラウドファンディングも予定しています。第2次投票では、10代を巻き込むことで参加していただきたいと願っています。ぜひ、一緒にこの賞を盛り上げてください。

くわしくは[HP](#)をご覧ください。またSNSのフォローもよろしくお願いします。

(なるかわひろこ:玉川聖学院司書教諭)

稲葉茂勝/渡邊 優 著

万国博覧会



知られざる歴史とSDGsとのつながり

シリーズ・とは何か①

2025年4月
大阪・関西万博開催！170年以上に及ぶ万博の歴史を
その起源にまで遡って紐解き
貴重な資料や珍しい写真類を
ふんだんに使って描く

A5判美装カバー・328頁 3080円

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

世界300万部突破の大人気絵本

マップス・プラス
新・世界図絵アレクサンドラ・ミジェリンスカ &
ダニエル・ミジェリンスキ作・絵24か国の地図に、食べ物、
歴史的な建物、有名な人物など
さまざまな分野のイラストを
ちりばめた、
子どもも大人も楽しめる
大判絵本です。 ●定価3300円(税込)

好評既刊

マップス 新・世界図絵

42の国と地域を網羅！

●定価4180円(税込)



© Aleksandra Mizielirska and Daniel Mizielirski, 2012, 2019

徳間書店 〒141-8202 東京都品川区上大崎3-1-1 目黒セントラルスクエア
TEL.049-293-5521(受注センター) https://www.tokuma.jp/kodomonohori/

株式会社 三善

2025年度 英語名作ライブラリー

洋書絵本
セット紹介の
WEBサイトは
こちらから

eigo-meisaku.com

英語名作ライブラリー



〒167-0032 東京都杉並区天沼2-2-3

TEL: 03-3398-9163 FAX: 03-3398-9170

広い世界の芸術にふれる全3冊！

美術にふれる絵本セット

ハリエット・ヴァン・レーク / ワウター・ヴァン・レーク 作
野坂悦子 / 訳 ●A4変 / 平均26頁 / 定価: 本体4,400円 + 税

モンドリアン / ヒルマ・アフ・クリント / エゴン・シーレ

朔北社

〒191-0041 東京都日野市南平 5-28-1-1F

TEL042-506-5350 http://www.sakuhokusha.co.jp

かがくるBOOK 科学漫画

サバイバルシリーズ〈2025年
新刊セット〉

新作&改訂版の新刊セット! 更新をお願いします

第2シリーズで
アニメ化が決定
した新作「海面上
昇1・2」、「月」と
第1シリーズで
アニメ化された
改訂版「南極」の
新刊セット。テレビ
アニメ化
決定!© Gomdori co., Kim Jeung-Wook, Han Hyun-Dong, Mirae N / Ludens Media /
朝日新聞出版 / NHK・NEP・東映アニメーション

文: ゴムドリco.ほか / 絵: 韓賢東ほか / 全4巻

揃定価5,280円(揃本体4,800円+税10%)

NDC450ほか / B5変型判 / 平均181頁 / ISBN978-4-02-332099-4

朝日新聞出版

10代がえらぶ
海外文学大賞

開催決定!

まずは5/1～5/14の
第1次投票、
ぜひご参加ください!

10daikaigaibk



10daikaigaibungaku

